



2025年12月19日

日本鉄道労働組合連合会

## J R 四国連合第31回定期大会

J R 連合への総結集と労使の信頼関係構築に全力をあげ、  
安全・安心で将来に希望が持てるJ R グループを創造しよう!

J R 四国グループ労働組合連合会 (J R 四国連合) は12月5日、香川県宇多津町「ホテルアネシス瀬戸大橋」で定期大会を開催し、向こう1年間の活動方針を決定した。

大会の冒頭で挨拶した中村鉄平会長代行 (J R 連合副会長・J R 四国労組執行委員長) は、「今年は残念ながら2件の仲間の命を失う死亡労災事故を発生させてしまった。あらためてグループ全体でソフト・ハード対策を強化しよう」と呼びかけるとともに、「2025春闘では多くの成果を獲得したが、目標賃金には届いていない。人件費はコストではなく成長投資だ。2026春闘でも賃金改善の流れを継続・加速させる」との決意を述べた。そして、「明るい将来展望を描くことのできるJ R 四国グループとして持続的に成長させていく」とJ R 四国連合の更なる結束を訴えた。

J R 連合からは、上村会長が出席し、2025年の1年間に7名の死亡労災事故が発生したことを重く受け止め、「何よりも安全を最優先に」と訴えるとともに、2026春闘の動向や労働基準法制の見直しの審議状況等について所見を述べた。

議事では、杉本慶太事務局長代行 (J R 四国労組執行委員) が提起した活動経過報告や活動方針 (案) などに対し、5名の代議員から、①冬季賞与獲得、②人手不足・高齢化への対応、③非正規労働者の社員化、④2026春季生活闘争などの報告・質疑があり、執行部の答弁を経て全議案が満場一致で承認された。



また、役員の選出では、新たに選出された中村会長をはじめとする17名の新体制が確認された。最後に、中村会長の「団結がんばろう」で大会を締めくくった。



J R 四国連合 中村会長



J R 連合 上村会長